

保健室

保育研究シート

2023年2月10日(金)

養護教諭 渡邊 満美

1. 子どもたちの姿

先週は寒い日が続き、暖かい部屋で過ごすことを選んで来る子どもが多くいた。保健室と、保育室の近い4歳児が多くいたが、2学期までの養護教諭がいる保健室で安心して過ごすというより、友達との関わりが多くなってきた今、保健室を選んで過ごす子どもたちが多い。3歳児、保育室は保健室と場所は遠いが、3学期になり子どもたちだけで来るようになってきている。けがの手当ても、担任の先生と一緒になくても大丈夫になり、子どもたちの生活に保健室が位置付いてきたのを感じる。5歳児は、昨年、保健室で過ごした経験から、それぞれが、自分の必要な時に応じて、保健室で過ごすようになってきている。

2. 子どもへの願い（かかわりの視点から）

異年齢の子どもたちが一緒に過ごす保健室は、どの学年の子どもにとっても過ごしやすい空間にしていきたい。

*自分とのかかわり

けがや具合の悪い時は、いつもと違う自分のからだの変化を感じ、様々な形で表現するようになってほしい。周りに色々なひとがいる中でも、自分らしく過ごすことを気持ちよく感じ、過ごしてほしい。

*人とかかわり

いつもは出会わない人、異学年との少し距離のある関係の中だからこそ、相手の思いを感じられることもある。そのような関係においても、自分らしく関わってほしい。

*もの・こととかかわり

保健室は、クラスとは違う場所であることを感じ、自分だけでなく、みんなが気持ちよくいられるような、過ごし方をしてほしい。異学年がいること、様々な気持ちで過ごしているひとがいること等、教師が相手を感じられるような声をかけて、過ごし方を考えるきっかけにしたい。

<保健室>

暖かい部屋で

ものづくり、おりがみなどをして
過している。

担任の先生と

連携をとりながら
子ども同士の関わりを
促す等、遊びが
つながるように
関わっていく。

ソファや本棚の前

本をひとりじっくり読むひと、ながめるひと
読んでほしいと思っているひと、調べに来るひと、
本を楽しんだり、活用したりしている。



手当ての場所

けがをしたひとの手当てを
養護教諭と一緒にすることで
自分の気持ちをたてなおしたり、
自信になったりしている。

保健室は、けがや具合の悪い時に来るのはもちろんのこと、絵本も置いてあり、図書室のような機能を兼ねている。保健室では、子どもたちがクラスの枠を越えて出会う中で過ごしている。養護教諭は、けがなどへの応急処置の対応をしながら、保健室で過ごす子どもたちと関わっている。子どもたちが保健室で過ごす理由は「痛いから、もう少し休もう」「絵本を見たい」「今は静かな場所にいたい」「誰かに気持ちを受けとめてほしい」など様々である。